

## ■学校経営のポイント

### 全国学力調査結果の活用のポイント

小島 宏

全国学力・学習状況調査の令和元年度の調査結果が公表された。平均点と順位に偏することなく、自校の子どもたちのよい点と課題を分析し、さらによりよくなるよう対処したいものである。

#### 自校の学力・学習状況の結果の分析

まず、文科省「報告書(令和元年7月)」により学力・学習状況の全国的な「課題等」及び「指導改善のポイント」をざっくりと把握する。

その上で、これらを参考に、当該学年を中心とした組織的な取組により、自校の「よい点」「課題」「不足している事柄」などを明確にし、情報を教師だけでなく、学校便りなどを通じて、子どもや保護者とも共有する。

#### 具体的な改善策を探る

まず、「よい点」を確認し、これまでの指導に自信をもつとともに、何がよい結果をもたらしたのかを明確にし、さらに伸ばしていくよう工夫を重ねることが重要かつ必要である。

また、「課題」については、その要因を多面的に追求し、明らかにするとともに、その改善策を検討し、実行することが大切である。

さらに、「不足している事柄」については、何を取り入れたらよいか、指導の在り方をどう改善したらよいか考察し、新規導入をする必要がある。

#### カリキュラム・マネジメントの着実な実施

調査対象の学年に限ることなく、全学年を通じて、カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、「よい点」をさらに伸ばしていく、「課題」は原因を捉え対策を講じ改善する、「不足」は必要な新規導入を図るようにする。

具体的には、1～6学年の年間指導計画に一貫性

を持たせるとともに、単元の指導計画に「よい点」「課題」「不足している事柄」の対策を具体的に盛り込むようにする。その上で、1単位時間(ひとまとまり)の授業の展開に反映させるようにする。

さらに、調査対象の国語科、算数科・数学科、英語科のみならず、全教科の学習で、「よい点」「課題」「不足している事柄」を意識して、教科の特色に応じた授業を展開していくようにする。

#### 流行に惑わされない

自学自習の習慣をつけ、自立した学習者を育てるために、宿題を廃止するという主張と実践が一部にみられる。このような流行に惑わされず、自校の子どもの実態や家庭状況等を踏まえ、発達段階に即した適切な取組によって、自立した学習者を徐々に育てていくことが肝要である。

一方で、知識・技能の確実な定着ということで、単調な繰り返しドリルに終始する指導も行われている。知識・技能の活用や見方・考え方を働かせた問題解決に課題があることに鑑みれば、ドリル学習の見直しが求められる。

ドリル学習では、知識・技能がある程度定着したら問題解決等に活用しながら実際に活用できるようにすると効果的である。このことによって、「思考力・判断力・表現力」の育成にもなる。

#### 教師の授業力の向上がポイント

管理職は、学力調査の平均点や順位にこだわりすぎず、自校の子どもや教師の実態に応じたカリキュラム・マネジメントをリードする必要がある。

そして、「質の高い教育」を実践できるよう教師の授業力向上に意を用いることが肝要である。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●新教育課程に向けて教員に必須の知識を一冊に凝縮！《好評発売中！》

### 教育の最新事情がよくわかる本2020

【編集】教育開発研究所 B6判／定価(本体 2,000 円)＋税



■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。